

千住の祭囃子

千住には7つのお囃子保存会があり、地元をはじめ、都心部の祭礼にも招かれてお囃子の奉納が行われています。柳原箕輪囃子は、元禄年間(1688~1703)に箕輪某という御家人が地域の若者への成人教育として御囃子を伝えたといわれています。その他、曙箕輪囃子協会、稲穂会、江戸ばやし仲町巴会、神田囃子睦会、神田囃子千四会、川田囃子連中は、戦後に結成されました。柳原箕輪囃子と曙箕輪囃子は、区内でも数少ない箕輪囃子を伝承しています。その他は神田囃子の系譜で、戦後間もない昭和22(1947)年に熟達した名人たちが「千笑会」を結成して、神田囃子の普及に務めました。



▲明治42(1909)年の柳原稲荷神社奉納絵馬
囃子稽古をする会員の名前が記されています。



▲柳原箕輪囃子連は毎年7月1日の山開きに、
境内の富士塚の前でお囃子が奉納されます(柳原2-38-1)。



▲大川町水川神社の例祭で、神輿行列に供奉する川田囃子連中。
歩きながら演奏する「底抜け屋台」を曳いています。



▲仲町盆踊り大会(千住仲町公園・千住仲町28-1)
檜台でお囃子を演奏する江戸ばやし仲町巴会